

## 【水安全計画によって得られる効果】

水安全計画を効率的に運用することによって、以下のような効果が得られます。

### ＜水道の安全性の向上＞

水源から蛇口までの危害原因事象を把握して必要な対応をとることによって、リスクが軽減され、水道の安全性が向上します。

### ＜水道の維持管理の向上・効率化＞

危害分析を行うことで、水道に存在する危害原因事象が明らかになり、管理方法や優先順位を決めることができます。これによって、水道の維持管理水準の向上や効率化が図られます。

### ＜技術や知識の継承＞

危害への対応方法等をマニュアル化することで、高度な技術や知識の継承が可能となり、将来にわたって高い技術力を維持することができます。

## 【PDCAサイクルによる運用】

水安全計画の内容を継続的に充実させていくために、PDCAサイクルによって運用していきます。

Plan（計画）→Do（運用）→Check（検証）→Action（見直し）の繰り返しによって水安全計画の内容を充実させ、更に高度なレベルで水道の安全性を確保していきます。



## Q & A

Q.1: 抽出した危害はどれくらいあるの？

A.1: 水道の構成要素(水源、取水・導水、浄水、配水池、送水、配水、給水、設備)別に危害を抽出したところ、合計で526の危害がありました。

Q.2: 抽出した各危害に対するリスクレベルの設定方法は？

A.2: 抽出した各危害について、発生頻度や影響程度をそれぞれ検討して、リスクレベルを5段階で設定しました。影響度が大きい危害は発生頻度が小さくても、リスクレベルを最大のレベル5に設定しています。

Q.3: 予測できない事故が起こったときはどうするの？

A.3: 予測できない事故や管理基準から大幅に逸脱した緊急事態が起きた場合の対応を、各所管部署ごとに緊急時のための行動マニュアルを整理しています。  
このような事態が起こった場合は、再発防止策を検討するとともに、新たな危害として水安全計画に反映していきます。

# 横浜市水道局 水安全計画の概要



横浜市水道局キャラクター「はまピオン」

平成29年4月  
横浜市水道局

# 横浜市水道局水安全計画の概要

## 【安全で良質な水をお届けするために…】

水源から運んだ水は、浄水場できれいにしてから配水池に貯められ、水道管を通過して皆さまのご家庭の蛇口に届けられます。

ところが、この一連の過程の中にはさまざまな危害が潜んでいる可能性があります。そのため、水道局では、これらの危害を取り除き、いつでも安全で良質な水をお届けするために、「横浜市水道局水安全計画」に基づいて、水源から蛇口までの間でさまざまな取組を行っています。

## 【水道に潜む危害とは…】

例えば、原水の水質異常、浄水処理過程の異常、給・配水過程での異常など、さまざまな危害が存在します。

- ＜原水の水質異常＞・・・かび臭物質の発生、車両事故等による油の流入 等
- ＜浄水処理過程の異常＞・・・浄水処理過程で発生する危害物質、浄水処理設備故障 等
- ＜給・配水過程での異常＞・・・水道管の破損、赤水の発生 等

## 【水安全計画とは…】

水源から蛇口までの全ての段階で、危害の抽出と、抽出した危害の管理及び適切な対応を行い、安全な水の供給を確実なものにする方法を定めたものです。

危害の管理によって、事故等を未然に防ぐことができます。また、危害が発生してしまった場合においても、迅速かつ適切に対応することが可能となり、水道の安全を守ることができます。

## 【水安全計画の主な項目について】

「横浜市水道局水安全計画」は、主に次のような項目で構成されています。

**危害の分析**  
水道に存在する危害を抽出・分析し、危険性を整理して、リスクレベルを設定しました。

**管理措置の設定・緊急時の対応**  
危害発生防止やリスクの軽減対策を設定しました。また、危害が発生した場合の対応策も整理しました。

**定期的な検証と見直し**  
将来にわたって安全な水をお届けするために、定期的な見直しを行い内容を充実させていきます。

## 【各施設等での主な管理項目と異常時の対応】

